

舞鶴港湾事務所におけるSDGsの取組について

私ども舞鶴港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、舞鶴港・柴山港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



舞鶴港和田地区国際物流ターミナル整備事業

舞鶴港は、近畿圏における日本海側の海上輸送の拠点となっている。
舞鶴港和田地区においては、貨物需要の増大や船舶の大型化に対応するため、岸壁の整備を行っています。
対岸諸国との国際貿易拠点として港湾機能強化を行うことで、効率的な海上輸送及び地域産業の国際競争力強化の推進を図ります。



現場見学・出前講座の実施

舞鶴港湾事務所では、国民のみなさんとの対話を重視したコミュニケーション型行政の推進や未来の担い手を確保を目的に、小学生から高校生を対象に職員が学校に出向き、舞鶴港の歴史と整備事業の概要や港の役割に関することについて紹介させていただく「出前講座」を開催しています。
出前講座は無料です。申し込みは事前に(1ヶ月前までに)ご連絡をお願い致します。

【目標】 現場見学・出前講座の実施を継続



大阪港湾・空港整備事務所におけるSDGsの取組について

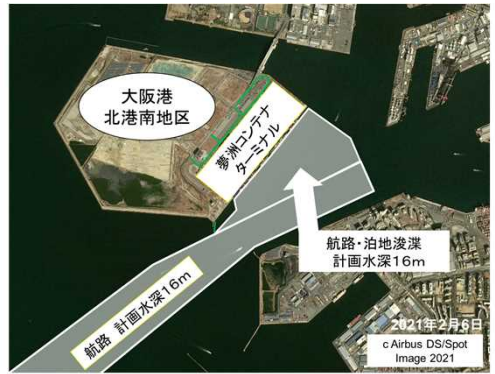
私ども大阪港湾・空港整備事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、港湾・空港整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



大阪港北港南地区国際海上コンテナターミナルの整備

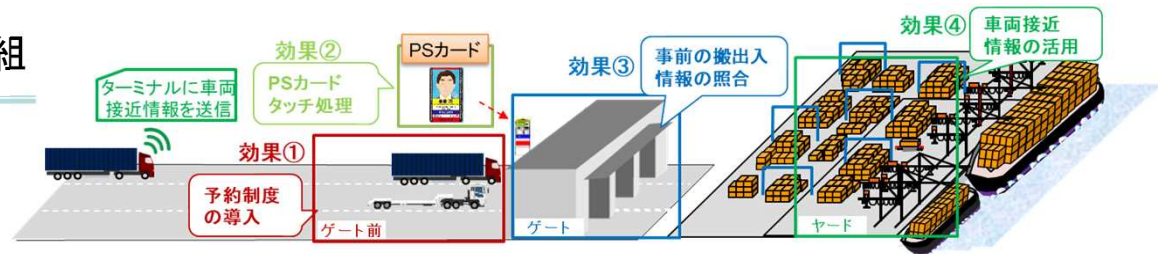
大阪港北港南地区の夢洲コンテナターミナルでは、今後のコンテナ貨物の増加やコンテナ船の大型化に対応するため、岸壁、航路等の整備を行っています。また、大規模地震災害に備え安定的な物流機能の確保を行うため、耐震強化岸壁やその背後の荷さばき地の液状化対策等を行っています。

整備の効果として、貨物の大量輸送が可能となることによる物流の効率化、安定的な物流網の確保、耐震機能の強化によるサプライチェーンの強靭化、これらを通じた地域経済の持続的な発展が期待されます。



CONPASによるコンテナターミナル効率化の取組

コンテナ船の大型化に起因するコンテナ積卸個数の増加により、コンテナターミナルのゲート前の混雑が深刻化しています。これを踏まえ国土交通省において、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を目的にCONPAS※を開発しました。大阪港では本格運用に向けた試験運用を実施しています。



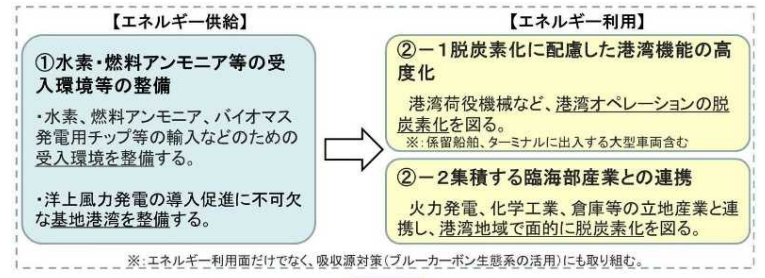
CONPASのイメージ

※Container Fast Pass: ゲート処理等の効率化やセキュリティの向上を目的としたシステム



カーボンニュートラルポート形成への取組

脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化等を通じて「カーボンニュートラルポート(CNP)」を形成し、我が国全体の脱炭素社会の実現に貢献することを目指し、「大阪“みなと”(大阪港・堺泉北港・阪南港)におけるカーボンニュートラルポート(CNP)検討会」に参画し、CNPの形成に向けた検討を進めます。



行政機関、港湾立地・利用企業等が連携し、港湾地域で効率的に脱炭素化を推進

カーボンニュートラルポート(CNP)の形成

「カーボンニュートラルポート(CNP)形成計画」策定マニュアル(初版)より

神戸港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども神戸港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、神戸港、姫路港等の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

藻場・干潟再生の取組

2020年、兵庫運河に港湾工事で発生した石や砂を有効活用して干潟を造成しました。豊かな海の再生に取り組む漁業者、研究者と連携し、地元小学校の環境学習の場として活用しています。
 現在、地元の親子に呼びかけ、天然アサリの育成調査を行うとともに、アマモ・魚類の生息分布調査や干潟機能の調査を行っています。
 これからも神戸港における護岸整備などを通じて、藻場や干潟の再生技術の向上に努めていきます。 【目標】 2022年度1ヶ所→2024年度2ヶ所



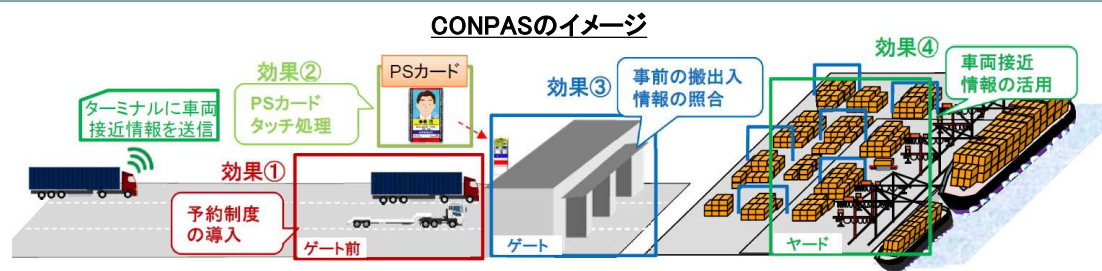
干潟全景('20.11月)



アサリ育成調査('20.5月)

COMPASによるコンテナターミナル効率化の取組

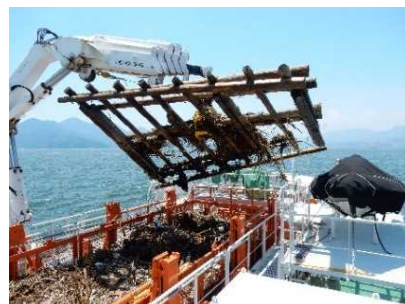
コンテナ船の大型化に起因するコンテナ積卸個数の増加により、コンテナターミナルのゲート前の混雑が深刻化しています。
 これを踏まえ国土交通省において、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を目的にCOMPAS※を開発しました。神戸港では本格運用に向けた試験運用を実施しています。



※Container Fast Pass: ゲート処理等の効率化やセキュリティの向上を目的としたシステム

海洋環境の整備

1974年から、美しい海を守るため海面清掃と油回収業務を行っています。現在は大阪湾と播磨灘を対象に「Dr.海洋」、「クリーンはりま」の2隻の海面清掃船兼油回収船が従事しています。
 西日本豪雨災害時の流木等の海上漂流物の回収支援、東京湾での軽石漂流対策支援など、大規模災害時などで緊急出動しています。
 また、大阪湾再生行動計画等のための基礎データを取得する水質調査を行っています。



西日本豪雨災害時の漂流物回収 ('18.7)

出前講座・見学会・資料館の取組

港のことや防災について知っていただく、「出前講座」や「みなと見学会」を随時受け付けています。最近では、小学校の児童への講座(web形式)が増えています。
 事務所の隣にはパネルや映像、模型などで、神戸港の歴史や役割を楽しく学べる神戸築港資料館「ピアしっくす」を開設しています。(入館無料ですが事前にご連絡ください。)



市立東灘小学校での出前講座('21.7)

【目標】 実施を継続

和歌山港湾事務所におけるSDGsの取組について

私ども和歌山港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、和歌山県内における活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



わかやまもつこう ほんこう

和歌山下津港本港地区国際物流ターミナル整備事業

和歌山下津港本港地区では、船舶の大型化に対応するため、航路、泊地、防波堤等の整備を行っています。

大型船舶(必要水深13m)による効率的な一括大量輸送が可能となることから、地域産業の輸送コスト削減による競争力強化、サプライチェーンの強靱化、安定的な物流網の確保、CO₂及びNO_xの削減などが整備効果として期待されます。



きれいな海を未来につなぐ、海洋環境整備事業の推進

海面に浮遊するごみや流木は船舶の安全な航行に支障となります。また、海難事故等による大量の油流出は生物への影響も甚大です。当事務所配備の海洋環境整備船「海和歌丸」は、これらの回収を行っています。

海洋環境の大切さを伝えるため、学校や地域のイベントへ等への参加を積極的に行っています。

【目標】 海洋環境の保全を継続



海洋環境船「海和歌丸」



回収されたゴミ



現場見学・出前講座等の実施

和歌山港湾事務所では、コミュニケーション型行政の推進や未来の担い手を確保を目的に、学生へ「現場見学会」・地域の皆様を対象にした「パネル展」、小学生に、港の役割に関することについて紹介する「出前講座」を開催しています。参加費用は無料です。申し込みは事前に(1ヶ月前までに)ご連絡をお願い致します。

【目標】 現場見学・出前講座・パネル展の実施を継続



神戸港湾空港技術調査事務所におけるSDGsの取組について

私ども神戸港湾空港技術調査事務所では、以下の取り組みをはじめとする各種施策を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、近畿地方整備局管内の港湾・空港・海岸・環境整備等の事業を技術的にサポートすることを通じ、「経済好循環の加速・拡大」、「国民の安全・安心の確保」、「豊かで活力ある地方創り」に貢献して参ります。



港湾におけるカーボンニュートラルの実現に向けた取組

浚渫土を固化することで浚渫土に含まれる有機体炭素の分解を抑制し、その固化体の有効利用により固化体内に有機体炭素を貯留し、二酸化炭素排出量を削減する取り組みや天然石に替わる材料及び副産物を利用した低炭素コンクリートの開発による二酸化炭素排出量を削減する取り組みをしています。また、リサイクル骨材を用いたコンクリートの適用性の検討も進めています。今後も引き続き、排出削減だけでなく、吸収拡大に向けての大型藻類の付着活性化に関しても取り組みを進めていきます。

例) 固化浚渫土(カルシア改質土)の裏埋土利用



大阪湾生き物一斉調査の実施

「大阪湾再生行動計画」の取り組みの一つとして、大阪湾の環境へ関心を持っていただくため、大阪湾沿岸で環境活動に取り組んでいるNPO等の地域の様々な団体と一緒に、大阪湾沿岸各地で生き物の種類、貴重種の出現状況等の調査を年1回実施しています。分かりやすい指標(生き物)により調査を行うことで、美しく親しみやすい豊かな「魚庭(なにか)の海」の回復へ向けて気運の醸成を図っていきます。

【目標】 1回/年開催



大阪湾フォーラムの開催

大阪湾沿岸で活動するNPO等と連携して、「大阪湾フォーラム」を開催しています。大阪湾の沿岸域で活動されている市民団体や博物館、学生、行政機関等が参加し、大阪湾の環境再生に関する取り組みの紹介、情報や意見の交換を行っています。また、継続的に交流を行うことで、大阪湾の環境再生をめざす人々たちによるネットワークの拡大を図り、連携が深まっていくことを期待しています。

【目標】 1回/年開催

